

古古古米生かせ庶民の台所

竹本　タエ子

勢いを増して来るのは白髪だけ

坪郷　英美子

母の杖声なき声に励まされ

寺畑　俊子

大喧嘩ツバキ飛ばして入れ歯まで

松村　隆良

良いこともあったと昔懐しむ

藤井　節子

こここまいいかせしょみんのだいどころ

たけもと　たえこ

いきおいをましてくるのはしらがだけ

つぼごう　えみこ

ははのつえこえなきこえにはげまされ

てらはた　としこ

おおげんかつばきとばしていればまで

まつむら　たかよし

よいこともあったとむかしなつかしむ

ふじい　せつこ

口癖も母に似て来し柿の花

林 保江

路剥くや上がりかまちの姉妹

山本 隆子

雨宿り葉っぱの裏の初螢

金内 憲一

かぶりつくパイより香る夏の味

貞弘 和子

約し友の逝きて一人の紫陽花路

賤間 由美子

くちぐせもははににてきしかきのはな

はやし やすえ

ふきむくやあがりかまちのあねいもと

やまもと たかこ

あまやどりはっぱのうらのはつほたる

かねうち けんいち

かぶりつくぱいよりかおるなつのあじ

さだひろ かずこ

やくしとものゆきてひとりのあじさいじ

ざいま ゆみこ

さくらんぼ背伸びして採るその先に  
五月の空と白く透く指

弘重 和恵

初物のタケノコ煮込み病む友に  
春がきたよと山椒も添えて

河野 美津子

グーチョコキパー指とステップの揃わずに  
笑い立ち来る『ほっとカフェ』にて

原田 たえこ

ネコカフェにいても野原を駆ける夢  
少しは分かかって僕のプライド

賤間 星

終戦時お米に泣いた非農家子  
グラント芋で給食のたし

森坂 達夫

さくらんぼせのびしてとるそのさきに  
ごがつのそらとしろくすくゆび

ひろしげ かずえ

はつものたけのこにこみやおともに  
はるがきたよとさんしょもそえて

かわの みつこ

ぐーちよきはーゆびとすてっぷのそろわずに  
わらいたちくる『ほっとカフェ』にて

はらだ たえこ

ねこカフェにいてものはらをかけるゆめ  
すこしはわかってぼくのぷらいど

ざいま せい

しゅうせんじおこめにないたひのうかこ  
ぐらんどいもできゅうしょくのたし

もりさか たつお

乗り換えの多い旅をしている

星井 香筍

初々しい私が日記の中にいた

岡村 裕司

いつの日か肩書き忘れの同窓会

吉野 俊夫

気をつけるんよ いつもの別れ言葉

西岡 悦子

布絵本にむらがるあったかい手

田中 律子

のりかえのおおいたびをしている

ほしい こうじゅん

ういういしいわたしがにっきのなかにいた

おかむら ひろし

いつのひかかたがきわすれのどうそうかい

よしの としお

きをつけるんよ いつものわかれことば

にしおか えつこ

ぬのえほんにむらがるあったかいて

たなか りつこ